

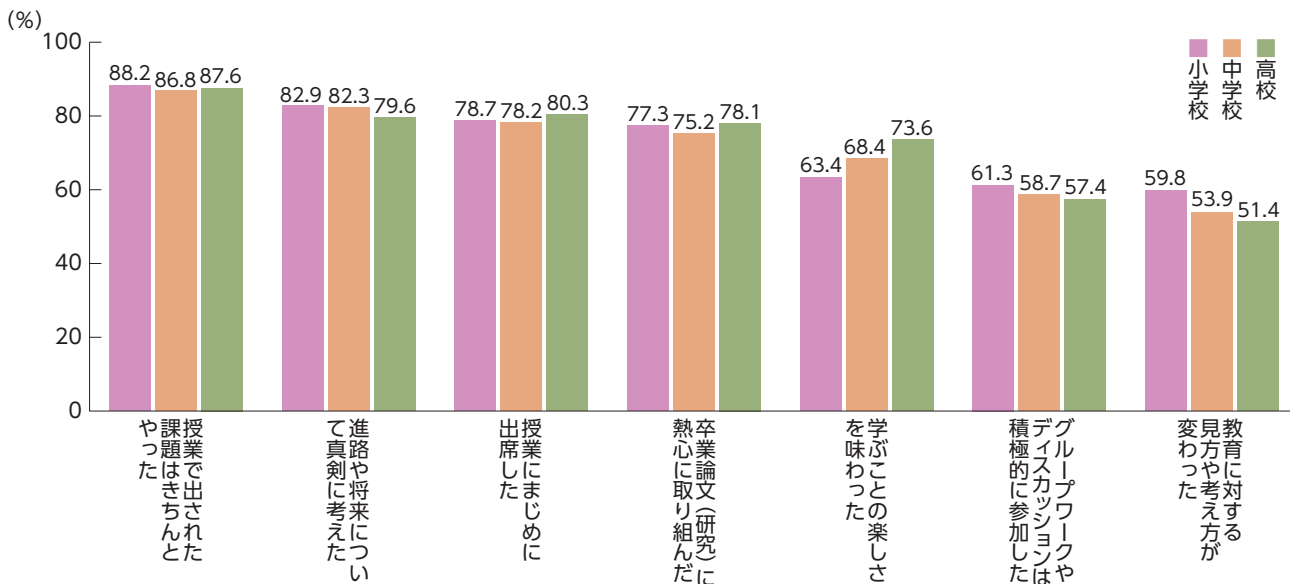
6. 大学時代の経験と役立ち感

大学での授業や学びで「教育に対する見方が変わった」と回答したのは5割台。

7～8割の教員は「授業で出された課題はきちんとやった」「進路や将来について真剣に考えた」「授業にまじめに出席した」と回答している。一方で「教育に対する見方や考え方が変わった」と回答した教員は5割台である。次に大学での授業(科目)の役立ち度をみると、「教育実習・教職実践演習」は8～9割の教員が「役に立っている(「とても役に立っている」+「まあ役に立っている」、以下同様)と回答したが、「教職の意義等に関する科目」「教育の基礎理論に関する科目」で「役に立っている」と回答したのは3～4割台である。

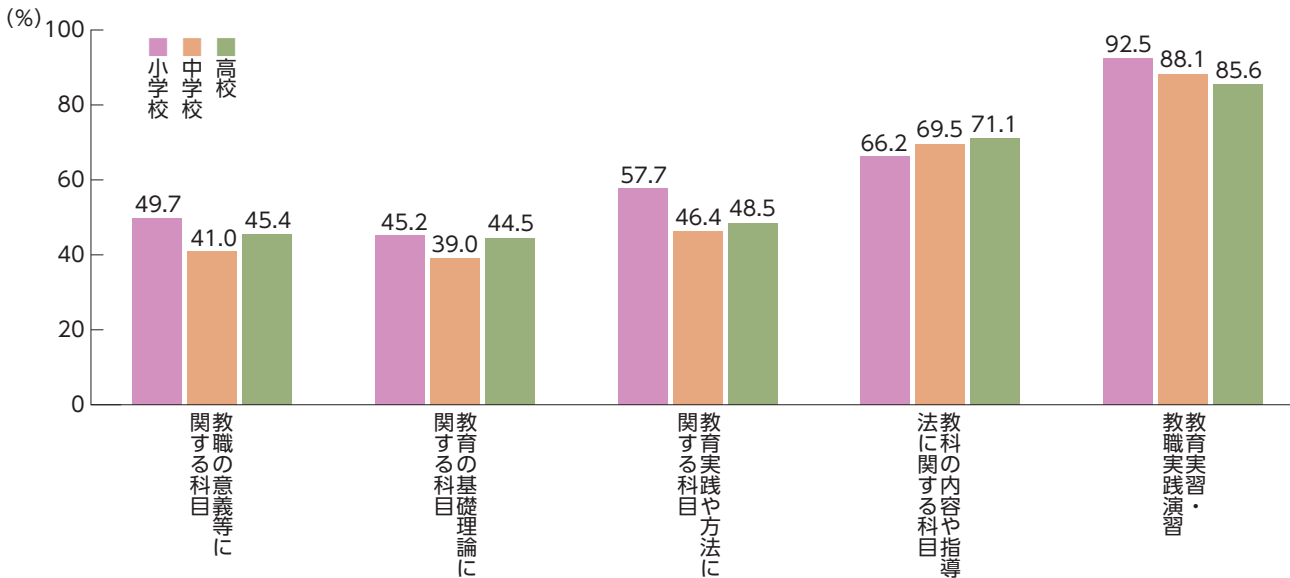
Q 大学生・短期大学生のときの授業や学びについて、次のことはどれくらいあてはまりますか。

図6-1 大学の授業や学びについて



Q 現在の教員生活において、大学での授業(科目)はどれくらい役立っていると感じますか。

図6-2 大学の授業(科目)の役立ち度



注1 「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の% (図6-1)。

注2 「とても役に立っている」+「まあ役に立っている」の% (図6-2)。

教育実習の経験や学生時代に築いた人間関係に役立ちを感じている教員が多い。

大学生・短期大学生のころに経験したことで、現在の教員生活に役立っていると感じることを尋ねたところ、多くの声が寄せられた。中でも教育実習やボランティア、インターンシップでの学校現場経験をあげた教員が多かった。また、大学生活での様々な人との出会いやかかわりから受けた影響や、現在もつながり支えあえる仲間との関係を構築できたことに役立ちを感じている教員も多い。その他、大学での研究や論文作成から学んだこと、部活動・サークル活動やアルバイトでの経験などの回答があった。

Q 大学生・短期大学生のときにあなたが経験したことの中で、現在の教員生活において役立っていると感じることがあれば、具体的に記入してください。

【教育実習での現場経験】

教育実習をはじめとする教育現場での実習。実際に子ども達の前で経験をしたことが現在に活かされている。本当に教員になってもいいかもしれないなど感じたのもこの時であった。(小学校教員)



【教育実習での現場経験】

教育実習で実際の場面を経験したことは現在の基礎になっている。実習期間やその機会が増えるとさらに役立つと考える。(中学校教員)



【教科の内容や指導法の授業】

教科の内容や指導法、様々な授業の形等について専門的に学んだことが日々の授業づくりに直接生きていると思う。(高校教員)



【人との出会いや人間関係の形成】

大学生活で出会った多くの人々との関わりから人間的に豊かになり、教員としてだけでなく一人の人として大事だと思ふ事を子ども達に教えられるようになった。(小学校教員)



【専攻テーマの研究】

自分が専攻する研究テーマについて、納得がいくまで調査したり研究したりした経験は、生徒に学習指導や課題研究させる時に妥協しないで取り組むことの大切さや意義を伝えることに役立っている。(高校教員)



【論文作成の経験】

論文執筆を通して論理的思考力が培われ、現在の仕事に役立っていると考えます。(中学校教員)



【部活動での経験】

運動部を通して、他者と協働する力・あきらめずに頑張り抜く力を養えたと思っている。そのために何事にも全力で向かっていく姿勢がついたと思っている。(高校教員)



【アルバイトでの経験】

様々な職種のアルバイトをしたことで仕事の内容だけでなく働くことの価値や大変さがわかりました。(小学校教員)

